

学位授与番号：乙 3 1 8 5 号

氏 名：古西 英央

学位の種類：博士（医学）

学位授与日付：平成 29 年 3 月 22 日

学位論文名：

Impaired gastrointestinal function affects symptoms and alimentary status
in patients after gastrectomy.

学位論文名（翻訳）：

（胃切除後の消化管機能障害が胃切除後障害の症状と生活状況に及ぼす影響に
関する検討）

学位審査委員長：教授 猿田雅之

学位審査委員：教授 池上雅博 教授 炭山和毅

論文要旨

論文提出者名	古西 英央	指導教授	矢永 勝彦
--------	-------	------	-------

主論文題名

Impaired gastrointestinal function affects symptoms and alimentary status in patients after gastrectomy.

(胃切除後の消化管機能障害が胃切除後障害の症状と生活状況に及ぼす影響に関する検討)

Hideo Konishi, Koji Nakada, Masahiko Kawamura, Taizo Iwasaki, Keishiro Murakami, Norio Mitsumori, Katsuhiko Yanaga

World Journal of Surgery. 2016 Jun 29. (Epub ahead of print) PubMed PMID:27357933.

<要旨>

背景：胃切除後障害は胃切除後患者のQOLを損ねる後遺症である。術後の消化管機能障害が原因と考えられているが、その病態についてはいまだ不明である。

目的：胃癌に対する胃切除後障害の症状および生活状況と消化管機能との関連を検討した。

方法：胃癌に対して胃全摘または幽門側胃切除術後無再発1年以上経過した51名の患者に対して胃切除後障害の症状(逆流, 嘔気, 腹痛, 早期飽満感, 下痢, 早期ダンピング全身症状, 早期ダンピング腹部症状, 後期ダンピング症状)の有無と生活状況(体重変化, 一回食事量, 一日食事回数)に関するアンケート調査を行った。また¹³C呼気試験法胃排出試験により貯留能と排出能を, 飲水負荷試験により容量負荷耐性をそれぞれ評価した。アンケート調査による有症状群と無症状群での消化管機能の比較と生活状況と消化管機能との関連を検討した。

結果：嘔気, 早期ダンピング全身症状の有症状群では有意な貯留能の低下を認めた ($p < 0.05$)。下痢, 早期ダンピング全身症状の有症状群では有意な胃排出能の亢進を認めた ($p < 0.05$)。早期飽満感, 早期ダンピング腹部症状の有症状群では有意な容量負荷耐性の低下を認めた ($p < 0.05$)。容量負荷耐性と体重減少, 一回食事量の間には有意な相関を認めた ($p < 0.05$)。

結語：胃癌術後の残胃の貯留能の低下, 排出の亢進, 容量負荷耐性の低下が胃切除後障害の症状, 生活状況の悪化と密接な関連があることが明らかとなった。

学位審査の結果の要旨

古西英央氏の学位審査論文は、ただいま学長先生がお示し頂いたもので、日本語で「胃切除後の消化管機能障害が胃切除後障害の症状と生活状況に及ぼす影響に関する検討」と題するもので、外科学講座消化器外科の矢永勝彦(やながかつひこ)教授、三森教雄(みつものりお)教授、中田浩二(なかたこうじ)准教授のご指導による研究で、World Journal of Surgery に掲載されたものに基づきます。2016年のWorld Journal of Surgery 誌の impact factor は、2.523 です。

本学位審査に際し、平成29年2月16日、池上雅博(いけがみまさひろ)教授、炭山和毅(すみやまかずき)教授のご臨席のもと、公開学位論文審査会を開催しました。

古西氏によるプレゼンテーションの後、口頭試問が行われました。

席上、1)胃切除後の消化管機能障害は、胃切除の量、リンパ節郭清の量、再建様式のどれが最も影響をうけやすいか、2)リンパ節郭清の影響はどれくらいあるのか?、3)「手術アプローチにおいて、術式間に有意差がみられた」とあるが、「手術アプローチ様式の違いにより、再建様式に有意差がみられた」という意味か? 開腹か、腹腔鏡で行うか? どのようにして決定するのか?、4)早期ダンピングがDBG1群で少ない理由は?、5)胃切除術式別で1日食事回数に差があった理由は?、6)「DGRY群ではTGRY群と比べて有意に術後観察期間が短かった。」とあるが、「DGRY群ではTGRY群と比べて有意に術後消化管障害の愁訴の期間が短い」という意味か? 術後観察期間は、どの様に設定しているのか、7)胃内残存率は、値が低い方が良いのか、高い方が良いのか?、8)残胃貯留能(RR5)と胃排出能(T1/2)は、表裏の関係にあると思うが、2つを測定する意味は?、などの多数の質問や指摘がありましたが、古西氏は何れに対しても的確に回答しました。

本論文は、各種胃切除術における変化を、胃貯留能、胃排出能、容量負荷耐性という指標で測定し、各症状の出現および生活状況の悪化と、その原因となる消化管機能との関連を示し、現在の臨床で行われている機能温存胃切除術が有用であることを示すものとなりました。

この点を評価し、慎重な審議の結果、学位請求論文と十分価値のあるものと認めました。